

2024 年度自己点検・自己評価結果

(2025 年 5 月)健和看護学院

◇はじめに

24 年度、健和看護学院は創立 50 周年を迎えた。北九州の地で半世紀にわたり看護師を養成し、3000 名を超える卒業生を送り出した。設置主体である健和会はもとより、実習を受けていただいた地域の病院や施設等、患者様・ご家族の温かいご指導、ご協力により学校運営が継続できたと感謝している。創立 50 周年行事を開催するにあたり、プロジェクトチームを立ち上げ準備を進めた。記念講演や記念祝賀会を開催し、記念誌を作成・配布した。多くの健和会職員や地域の方に参加していただいた。また、これらの取り組みには、在校生が多くかわり、大成功を収めることができた。

看護学校をめぐる状況は大変厳しいが、今後も長くこの地で看護師を養成し、地域・社会へ貢献できるよう教職員一同努力していく所存である。

◇2024 年度の特徴

○現況： 学校名：健和看護学院 住所：北九州市小倉北区大手町 15 番 1 号

学生数および教職員

	学生総定員	学生現数	再履修生数	男子	教員現数	その他
2024.4	240	219	19	36	19(内研修1)	学院長1・事務長1・非常勤事務1
2025.3	240	210	18	34	19(研修修了)	学院長1・事務長1・非常勤事務1
2025.4	240	203	15	40	19	学院長1・事務長1・非常勤事務1

○国家試験合格率：88.5%70 名受験 8 名不合格(24 年度 90.7%) 受験地：福岡

過去 5 年間で一番低い合格率となった。不合格者の学習状況を振り返ると、低学年からの学習習慣の定着と効果的な学習方法が重要であると考えている。模擬試験の確実な振り返りや学習要支援者への個別の対応等、対策を強化していかなければならない。

○入試の状況は、少子化、大学進学、就職の影響を受け、24 年入学生は 80 名定数 60 名となった。進路ガイダンス、高校訪問、オープンキャンパス、個別学校見学など行い、受験生確保に努めた。今後、大学全入時代となり、さらに専門学校の定数確保は厳しい状況となる可能性が高い。また、看護師を目指す人が減少していることもあり、地域(高校や小中学校など)に出向き、看護の魅力ややりがいを伝える必要がある。当法人には、看護学生を支援する委員会があり、高校生 1 日看護体験や高校生ボランティアを開催している。看護師を目指す学生を支援しながら、当校の魅力もアピールしていきたい。

○今年度は再履修生数が多い状況となった。学習不足が原因であるが、その理由としてアルバイトや生活管理の不十分さがあげられる。退学せず再履修を選択する学生は、看護師になりたいという願いを持っており、教員一同しっかりと支えていかなければならないと考えている。当校は 2020 年度より全国看護学生アンケート調査に協力している。全国から 1000 名以上の看護学生がアンケートに答えているが、多くの学生が経済的理由等で奨学金受給やアルバイトをしている。安心して看護師を目指していける学習環境づくりに尽力していく。

○学生自治会活動は、毎月学院と協議会を開催した。学院内の環境改善交渉や学生アンケートのお願い、高等教育無償化に向けた活動を行った。民医連立看護学校の学生との交流や国会請願時にビデオで学生の意見を訴えた。自治会総会が長く開催出来ていなかったが、今年度は開催できた。創立 50 周年記念行事へ自治会として参加し、学生活動をアピールすることができた。

○名札の着用などに対して、接遇マナーアップキャンペーンを実施した。接遇委員会を中心に声かけなど行い、また教員も継続して指導を行った。着用率は大幅にアップした。

○24 年度入学予定者に対して、5 教科 e ラーニングを実施した。入学前に学力の程度や努力の程度を把握することができている。文章能力に関しても「看護覚書」を入学前に購入し、入学前にレポート提出した。90 分授業を体験するため、入学前に授業見学を設定し、50 名が参加した。現在の e ラーニングは一般基礎学力問題となっている。今後看護学生として学べる e ラーニングを検討していく。

◇評価概要

	評価項目	分析および課題
I	教育理念・教育目的 《評点 3.0》 (23 年度 2.9)	当校は「すべての人々の生きる権利を守り、地域住民の要求に応える医療実践」「患者の立場に立った親切でよい医療」の実現と発展に寄与できる看護師の養成を行うために設立している。 この設立の趣旨に沿って、教育理念・教育目的を改定、3 つのポリシーを設定し、学校運営をす

		すめている。看護師養成所に求められる使命と健和看護学院としての特徴を踏まえた内容となっている。卒業時アンケート内で、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）の到達状況を評価している。23 年度は回答率が低く、評価が難しい状況であったが、今年度は 79%の回答率であり、95%～100%が「良くてきた」「できた」評価している。 今年度より 1.2 年生にも学年到達目標自己評価を実施。回答率は 1 年 100%2 年 95%であり、多くの項目が 90%を超える評価であった。アンケート内容の調整や回答率（3 年生）が課題。 新入生歓迎企画「梅のつぼみ」や九州沖縄看護学生企画「JWEL」、自治会活動などは、学生・教員ともに理念に基づいて取り組んでいる。
II	教育目標 《評点 3.0》 （23 年度 3.0）	教育理念に基づき、教育目的・3つのポリシー・学年別到達目標を設定しており、一貫性は図られている。入学前から卒業までの目標を具体的に設定している。新カリキュラムでは理念・目的・ポリシーのもと各領域・科目を設定している。卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）や経験録によって、卒業時に獲得している能力や技術は確認することができる。卒業生を受け入れた施設は、それらを含め継続的な基礎教育を行うことができる。法人の入職者に関しては、卒後教育プログラムを学院も共有しており、そのうえで教育目標を設定している。新カリキュラムとなり 3 年が経過した。今後、各科目・領域・進捗等の課題を抽出し検討をしていく。
III	教育課程経営 《評点 2.8 》 （23 年度 2.7）	カリキュラムポリシーのもと教育課程を編成しており、構成された科目は理念や目的等と整合性はとれ、学生・教員共に理解している。しかし、教職員全体で一貫した教育活動を行っていることを明確に出来ず、評価をあげることが出来なかった。今年度は、学生の成長についての明確な指導に対し重きを置き、各学年の目標を定め、学習計画の立案、実施、評価を行ったことを評価し、評価点数をあげることができた。また、教育理念に基づき、地域と暮らし、社会福祉、社会保障等の内容から、生命の尊厳と人権を重んじる人間性豊かな看護師に育てることができている。新カリキュラム・教育課程から、医師、認定看護師等の講義が増加し、外部講師の授業アンケートを行い授業内容の改善に努めた。院所間の異動により領域によっては授業時間が 50 時間を超えていることもあるため、今後も検討が必要である。2024 年度は各学年の到達目標の達成度を確認するアンケートを行い、課題が明確になったため教職員で共通認識し改善に向けて努力をしていく必要がある。また今年度、新カリキュラムの学生が卒業した。カリキュラム評価中であり、充実したカリキュラムになるよう微調整を検討している。また 2024 年度教職員倫理指針を制定し、評価の公平性や情報管理について規定している。実習については学生の看護実践体験の保障ができるよう教員、臨地実習施設や実習指導者と協働している。
IV	教授・学習・評価過程 《評点 3.0》 （23 年度 2.9）	授業の展開過程については、シラバスに各科目の目標・内容を明示しており、授業内容に応じて、学生が理解しやすいように授業形態の工夫と進捗の調整をしている。学生による授業評価を実施し、教員間で情報共有し次年度の授業評価に活かしている。今年度より各学年の到達目標の自己評価を実施したので 1 年次～3 年次にかけての教育目標の到達度をみていく。また、各領域で纏めを行い、新カリキュラムでの課題もみえてきたので、今後検討していきたい。 学習支援については3年間の学習支援計画をもとに、各学年で学生の状況に応じた学習支援を実施している。
V	経営・管理過程 《評点 2.9》 （23 年度 2.9）	毎年活動方針を作成し、半年ごとに評価を行い明示している。養成所の管理運営は、学院運営会議や管理会で協議し、その内容は全職員で共有している。教育理念・目的を基に個々が作成した個人目標を基に、管理者が面接を実施（年 3 回）し質向上に努めている。新任教員 1 名、県主催の看護教員養成講習会を受講。研究・研修の機会をもうけ学会・研修への参加を推奨している。 経営面では 2 年連続で定数 80 名の学生確保には至っていないため、減収となっている。オーブ

		ンキャンパス参加者から入学へと繋がっているが、それ以外での学生確保対策が必要。 2024 年度ではジェンダーレスを考慮した実習着へ変更、多目的更衣室の設置、学生便覧のハラスメント防止に関する規程に SOGI(性的指向・性自認)を追加した。 法人内外問わず実習施設から学生指導に対する協力を得ている。また 2024 年度は創立 50 周年を迎え、記念講演、祝賀会、記念誌作成にも多くの方に協力を得ることができた。
VI	入学 《評点 3.0》 (23 年度 3.0)	アドミッションポリシー(入学受け入れに関する方針)を設定し、募集要項やホームページ・学生便覧で述べている。入学前教育を強化することで、入学前から入学生の基礎学力や学習習慣の状況が把握できるようになった。地域の特徴として、看護大学が開校予定、専門学校の開校が決まっている。少子化、大学希望者、看護師を目指す学生の減少(ガイダンス参加での印象)等により地域の専門学校の受験生は減少している。ガイダンスの参加、オープンキャンパス実施など一人でも多く看護師を目指してくれるよう取り組みを強化する。また、健和会看護学生委員会(高校生看護体験等企画)との連携もさらに強化していくことが重要。24 年度看護協会の「看護の出前授業」に副院長・教務部長が登録したが依頼はなかった。
VII	卒業・就業・進学 《評点 2.8》 23 年度(2.4)	卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)の達成状況を、google フォームでアンケートを実施。昨年度低かった回答率は 79%には上昇した。95～100%の達成状況であった。設置法人へ就職した学生の状況は、教育委員会などで状況の把握はできる。設置法人外就職者の情報は、就職した施設からの訪問があり(5 件)そこから卒業生の情報を確認している。本校への学校訪問は合計 12 件。(北九州・田川・下関・飯塚・千葉・沖縄・東京)
VIII	地域社会/国際交流 《評点 2.6》 (23 年度 2.5)	地域・在宅看護論の授業に「地域とくらし」の科目を設定している。地域フィールドワーク・地域コミュニティへ参加し、学生・教員ともに地域の課題やニーズを知る機会となっている。オープンキャンパス(4 回開催 141 名:高校生 89 名・社会人 7 名・保護者 50 名)や学校見学(6 名)学校・進学ガイダンスや職業紹介(24 か所 128 名)を実施または参加することで、地域社会への貢献につながっている。国際的視野を広げるための授業科目として、英語を 30 時間設定している。国際看護の授業では国連の取り組みを紹介し、国際的な医療の在り方を学ぶよう設定している。23 年度はペシャワール会中村哲氏についてグループワーク・発表を行った。 今年度は学院創立 50 周年記念行事を開催した。特別講演案内を友の会等の地域の方へ行い、参加をしていただけた。
IX	研究 《評点 1.3》 (23 年度 1.3)	研究を補助する予算、体制はあるが、日常業務の多忙さから継続的に取り組むことができていない。民医連関連への報告発表は出来ているが、各領域の関連学会への投稿はできていない。担当領域学会への参加は 5 件。積極的な自己研鑽や研究につながる活動となっておらず、今年度も改善ができなかった。

24年度自己点検・自己評価結果

